

「ありがとう」を励みに

サリグンバ メリー アン バンザリ (フィリピン共和国)

(在日 3年1ヵ月)

私は小さい頃から、大好きなりんごと富士山がある日本に憧れていました。だから大学では日本語の勉強をしました。ところが大学を卒業しても日本どころか、フィリピンでの仕事さえ見つけることが出来ませんでした。やっと見つけた仕事は日本ではなくタイの英語教師でした。タイで2年が過ぎたころ「アン、日本に行けるチャンスがあるよ。早く帰っておいで。」と友人から連絡がありました。私はすぐに帰って日本に行く方法を調べました。調べたてわかったことは、フィリピンと日本の政府の間で、EPAと言われる経済連携協定が結ばれ、介護福祉士候補者を募集しているということでした。

すぐに申し込みをして試験を受けると、合格の通知が届きました。「やったあ、日本に行ける。」と飛び上がって喜びましたが、その時はまだ家族には何も話していませんでした。心配しながら両親にこの話をすると、やっぱり反対されました。しかし私が一生懸命気持ちを伝えると、仕方なくゆるしてくれました。

1年間の日本語の研修が終わり、徳島の特別養護老人ホームにやってきました。私は日本語には少し自信がありましたが、施設に来て挨拶をした時に、返ってきた言葉は、「おまはん、どっからきたんで。名前なんちゅうんで」さっぱり分かりません。しかしお年寄りは次々と話しかけて来ます。「よろしゅうたのんまんでよ」「なかようしてつかいな。」「えー、ちょっと待って~ここはどこの国。」「ここは日本じゃないの。」「私が勉強してきた日本語は通じないの。」まるで宇宙人と話をしているように感じました。私は思い切って挨拶をしました。「私はフィリピンから来たアンです。今日から宜しくお願いします。」すると返ってきた言葉は「は

いはい、どちらいか。」...「分からない。やっぱりここは日本と違う。日本じゃない。」

1ヶ月ほどたった時、お年寄りが「ねえちゃん、部屋にいぬ。」と言いました。私は急いで部屋をのぞきましたが、犬はどこにもいませんでした。職員さんに「Aさんが部屋に犬がいると言っています。」と報告すると、職員さんは、「えーっ」と言って走りかけ、次に立ち止まって私を見て大笑いをしながら「アン、それは阿波弁。部屋にいぬは部屋に帰るということだよ。」と教えてくれました。でも「いぬ」はワンちゃんのことでしょう。

それから3年が過ぎました。阿波弁もこのごろは少し理解できるようになりました。

ところで、私は大変やりがいのある介護の仕事をしています。介護をされていて一番嬉しいことは、本当に少しのことでも、お年寄りは「ありがとう」と言ってくださいます。この「ありがとう」を聞くたびに、介護の仕事をして良かったと感じています。

最近テレビで「あったかーいんだから」をしていると、お年寄りが喜んで見えます。だから私が「あったかーいんだから」の物まねをすると、大きな口を開けて笑ってくださり、「笑わしてくれてありがとう」と、また「ありがとう」を言ってくださいます。それが嬉しくて、またまた物まねをしてしまいます。

こんなことを毎日している私ですが、今は来年の1月にある介護福祉士国家試験の勉強に取り組んでいます。試験に合格すると、いつまでも日本にいたことができますが、不合格になるとフィリピンに帰らなければなりません。私は徳島が大好きです。もっともっと日本の福祉や先進介護を学び、将来フィリピンで役立つ介護士になりたいという夢があります。大げさにいうならば「介護を通してフィリピンと日本の懸け橋になりたい。」と思っています。そんな私を見て、お年寄りが阿波弁で「がんばりなはいよ。」「せいだして頑張るんでよ」

この励ましを聞くたびに、今度は私が「ありがとう」の言葉をお返ししています。ご静聴ありがとうございました。